



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年1月31日

上場会社名 キーウェアソリューションズ株式会社 上場取引所 東  
コード番号 3799 URL <https://www.keyware.co.jp>  
代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)三田 昌弘  
問合せ先責任者 (役職名)経営企画部長兼広報IR室長 (氏名)後根 桂二 (TEL)03(3290)1111  
四半期報告書提出予定日 2023年2月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績(2022年4月1日~2022年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	13,570	3.7	160	△35.1	404	△4.3	264	△4.9
2022年3月期第3四半期	13,083	5.5	248	458.0	422	138.4	278	124.5

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 275百万円(6.9%) 2022年3月期第3四半期 257百万円(71.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	32.89	—
2022年3月期第3四半期	35.79	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	10,885	7,636	70.2
2022年3月期	10,745	7,455	69.4

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 7,636百万円 2022年3月期 7,455百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	12.00	12.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期(予想)	—	—	—	12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想(2022年4月1日~2023年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,500	5.8	670	21.5	760	0.6	560	0.7	69.68

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無

(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 — 社(社名) — 、除外 — 社(社名) —

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2023年3月期3Q	9,110,000株	2022年3月期	9,110,000株
2023年3月期3Q	1,070,061株	2022年3月期	1,080,061株
2023年3月期3Q	8,035,866株	2022年3月期3Q	7,768,123株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(四半期累計)

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料の3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(セグメント情報等)	9
3. その他	10
(受注の状況)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限の緩和等により、社会経済活動の正常化が進むなかで、緩やかに持ち直しの動きがみられました。一方で、ウクライナ情勢等の地政学的リスクや世界的な金融引き締めを背景とした海外景気の下振れリスクに加えて、資源価格の高騰や円安による物価上昇が進行し、先行き不透明な状況が続きました。

当社グループが属する情報サービス産業につきましては、本年1月に経済産業省が発表した2022年11月の特定サービス産業動態統計(確報)によれば、売上高合計は前年同月比7.1%増と8ヵ月連続で前年を上回ったほか、売上高の半分を占める「受注ソフトウェア」も前年同月比8.7%増と8ヵ月連続で前年を上回りました。

このような事業環境のもと、当社グループは、2023年3月期を初年度とする5ヵ年中期経営計画「Vision2026」を策定し、「基盤事業の質的転換」「プライムビジネス\*の拡大」「新領域へのチャレンジ」の3つの基本方針のもと、事業拡大と高収益化の実現に向けて取り組んでおります。

「基盤事業の質的転換」に向けては、プロダクトやクラウドサービスなどの各種開発ツール等を活用した開発手法の活用拡大に加え、2021年に資本業務提携を締結した3社(株式会社J R 東日本情報システム、兼松エレクトロニクス株式会社、キャノンマーケティングジャパン株式会社)との連携の強化、請負案件の拡大、不採算案件の抑制等の取り組みを推進しております。「プライムビジネスの拡大」に向けては、業務プロセスの改善や最適なソリューションを提案できるコンサルタントの育成・採用を強化するとともに、競争力のあるソフトウェアパッケージの提供力の強化に取り組んでおります。また、昨年7月にキーウェア東北株式会社(連結子会社)を設立し、本年1月よりいわぎんリース・データ株式会社のシステム部門の事業を承継し業務を開始しました。東北地域における営業基盤とソリューション提供力を活かし、プライムビジネスの拡大を加速させてまいります。「新領域へのチャレンジ」に向けては、昨今、対策の重要性が高まっているサイバーセキュリティ領域や、今後拡大が見込まれるデジタル金融領域など、新たな事業領域拡大に向けた検討を進めております。

※ 当社グループでは、お客さまと直接契約を結びサービスやソリューションを提供する事業を「プライムビジネス」と称しております。

当社グループの当第3四半期連結累計期間の受注高は13,170百万円(前年同期比933百万円減、6.6%減)、売上高は13,570百万円(同487百万円増、3.7%増)、営業利益は160百万円(同87百万円減、35.1%減)となりました。営業外収益として持分法による投資利益238百万円を計上したことなどにより、経常利益は404百万円(同17百万円減、4.3%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は264百万円(同13百万円減、4.9%減)となりました。

セグメント別の業績を示すと、次のとおりであります。

#### ① システム開発事業

受注高は8,620百万円(前年同期比807百万円減、8.6%減)、売上高は8,721百万円(同346百万円増、4.1%増)、営業利益は425百万円(同113百万円減、21.0%減)となりました。

受注高につきましては、公共系での大型案件獲得などがあったものの、前期に案件拡大のあった官庁系や金融系、大型案件獲得のあった運輸系での反動減が影響し、前期比で減少となりました。売上高につきましては、運輸系、医療系などで前期に受注した案件の開発が順調に進捗したことなどにより、前期比で増加いたしました。損益面につきましては、官庁系において生じた不採算案件などが影響し、前期比で減少いたしました。

#### ② S I 事業

受注高は3,329百万円(前年同期比53百万円増、1.6%増)、売上高は3,589百万円(同245百万円増、7.4%増)、営業損失は115百万円(前年同期は256百万円の損失)となりました。

受注高および売上高につきましては、基幹システム系での大型案件獲得などがあり、前期比で増加いたしました。損益面につきましては、売上高の増加などにより前期比で改善したものの、前期から継続している不採算案件の品質を確保するために体制強化をしたことによるコスト増などが影響し、損失計上となりました。

③ その他事業

受注高は1,220百万円(前年同期比178百万円減、12.8%減)、売上高は1,259百万円(同104百万円減、7.7%減)、営業損失は127百万円(前年同期は17百万円の損失)となりました。

受注高および売上高につきましては、新事業系が堅調に推移したものの、サポートサービス系、販売系が軟調に推移し、その他事業全体では減少となりました。損益面につきましては、売上高の減少に加え、コンサルティング営業の体制強化により販売費が増加したことなどが影響し、損失計上となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債及び純資産の状況は、次のとおりであります。

① 流動資産

流動資産残高は、6,978百万円(前連結会計年度末比70百万円減、1.0%減)となりました。主な変動要因は、現金及び預金の増加、売掛金及び契約資産の減少であります。

② 固定資産

固定資産残高は、3,906百万円(前連結会計年度末比210百万円増、5.7%増)となりました。主な変動要因は、投資有価証券の増加であります。

③ 流動負債

流動負債残高は、3,007百万円(前連結会計年度末比159百万円減、5.0%減)となりました。主な変動要因は、買掛金の減少、短期借入金の増加、未払法人税等の減少、賞与引当金の減少であります。

④ 固定負債

固定負債残高は、241百万円(前連結会計年度末比119百万円増、97.4%増)となりました。主な変動要因は、繰延税金負債の増加であります。

⑤ 純資産

純資産残高は、7,636百万円(前連結会計年度末比181百万円増、2.4%増)となりました。主な変動要因は、利益剰余金の増加であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、現時点において2022年5月13日に公表いたしました内容から変更はありません。

なお、当社グループの事業特性として第4四半期に認識される収益の割合が高くなる傾向があるため、第3四半期連結累計期間の損益は、通期の業績予想から相対的に低くなる傾向にあります。

新型コロナウイルス感染症やロシアによるウクライナ侵攻につきましては、現時点において当社グループの事業および業績全体に与える影響は軽微であると考えております。しかしながら、当初の予想を超えた状況悪化等により当社グループの事業へ重大な影響が生じた場合には、その状況および影響度合いについて速やかに開示を行うことといたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	910,386	1,462,029
受取手形、売掛金及び契約資産	5,847,694	4,963,922
電子記録債権	36,968	12,287
商品及び製品	102,839	53,545
仕掛品	11,141	35,408
その他	143,508	455,456
貸倒引当金	△3,718	△3,919
流動資産合計	7,048,819	6,978,730
固定資産		
有形固定資産	88,992	93,315
無形固定資産		
のれん	127,855	111,873
その他	238,400	277,730
無形固定資産合計	366,255	389,604
投資その他の資産		
投資有価証券	3,045,211	3,242,880
その他	198,039	181,881
貸倒引当金	△2,219	△916
投資その他の資産合計	3,241,032	3,423,846
固定資産合計	3,696,279	3,906,766
資産合計	10,745,099	10,885,496

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,371,809	969,916
短期借入金	375,000	750,000
未払法人税等	129,230	20,361
賞与引当金	616,150	296,406
受注損失引当金	93,601	17,600
その他	582,044	953,597
流動負債合計	3,167,837	3,007,883
固定負債		
資産除去債務	115,023	116,629
その他	7,170	124,632
固定負債合計	122,194	241,261
負債合計	3,290,031	3,249,144
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,737,237	1,737,237
資本剰余金	758,294	757,936
利益剰余金	5,511,480	5,675,997
自己株式	△634,984	△629,076
株主資本合計	7,372,027	7,542,094
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	25,119	48,372
退職給付に係る調整累計額	57,921	45,884
その他の包括利益累計額合計	83,041	94,257
純資産合計	7,455,068	7,636,351
負債純資産合計	10,745,099	10,885,496

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年12月31日)
売上高	13,083,158	13,570,769
売上原価	11,002,946	11,428,828
売上総利益	2,080,211	2,141,941
販売費及び一般管理費	1,832,012	1,980,948
営業利益	248,198	160,992
営業外収益		
受取利息	11	7
受取配当金	3,018	3,322
持分法による投資利益	210,774	238,826
その他	42,092	30,972
営業外収益合計	255,897	273,129
営業外費用		
支払利息	7,801	1,620
支払手数料	23,730	10,704
投資事業組合運用損	4,460	6,083
その他	45,839	11,435
営業外費用合計	81,830	29,843
経常利益	422,264	404,278
税金等調整前四半期純利益	422,264	404,278
法人税等	144,240	139,953
四半期純利益	278,024	264,325
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	278,024	264,325

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	278,024	264,325
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△42	20,377
持分法適用会社に対する持分相当額	△20,160	△9,160
その他の包括利益合計	△20,203	11,216
四半期包括利益	257,821	275,541
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	257,821	275,541
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27項-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位:千円)

	システム 開発事業	S I 事業	その他事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額 (注) 2
売上高						
外部顧客への 売上高	8,375,325	3,343,361	1,364,470	13,083,158	—	13,083,158
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	308,213	—	115,990	424,203	△424,203	—
計	8,683,538	3,343,361	1,480,461	13,507,362	△424,203	13,083,158
セグメント利益 又は損失(△)	539,378	△256,819	△17,830	264,727	△16,528	248,198

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△16,528千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用等であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

	システム 開発事業	S I 事業	その他事業	合計	調整額 (注) 1	四半期連結 財務諸表 計上額 (注) 2
売上高						
外部顧客への 売上高	8,721,938	3,589,312	1,259,519	13,570,769	—	13,570,769
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	327,701	—	99,564	427,266	△427,266	—
計	9,049,639	3,589,312	1,359,084	13,998,035	△427,266	13,570,769
セグメント利益 又は損失(△)	425,924	△115,562	△127,737	182,625	△21,633	160,992

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△21,633千円は、セグメント間取引消去及び各報告セグメントに配分していない全社費用等であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. その他

(受注の状況)

当第3四半期連結累計期間における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

	当第3四半期連結累計期間 自 2022年4月1日 至 2022年12月31日			
	受注高 (千円)	前年同期比 (%)	受注残高 (千円)	前年同期比 (%)
システム開発事業	8,620,774	△8.6	3,362,914	△17.1
S I 事業	3,329,408	1.6	1,207,871	△14.9
その他事業	1,220,734	△12.8	235,149	△18.4
合計	13,170,917	△6.6	4,805,935	△16.6

(注) セグメント間取引については、相殺消去しております。